

序

本田治先生は、大阪大学大学院文学研究科東洋史専攻博士課程を一九七六年に単位取得退学され、大阪大学助手を経て、一九八〇年に本学文学部の東洋史専攻の助教授として就任されました。一九八九年には教授に昇任され、合わせて三十一年という長い期間を本学の教育・研究・行政に力を尽くしてこられました。この間、数度にわたる東洋史学専攻の主任をはじめ、調査委員長、二部教務主任、夜間主担当学部主事という役職を歴任され、学部・大学・大学院の発展に寄与されました。

一方、先生は、史学会、東洋史学会、社会経済史学会、中国水利史学会、東方学会など多くの学会でご活躍され、ご専門の中国宋代（十（十三世紀）の農村・農業研究で数多くのめざましい成果を挙げておられます。とりわけ、宋代の水利灌漑研究においては、学界から第一人者として評価されてきました。先生のご業績については、本論集の「主要著書・論文目録」に詳しいので繰り返しません。早くから中国をはじめ多くの国際学会でご報告を行ってきたことも特筆すべきことだと思えます。

さらに、先生は、その教育・研究を通して優秀な研究者を数多くお育てになりました。次の時代の東洋史研究を担う人材が、先生の教えを受け、広く活躍しています。

本田先生は、大変に控え目なお人柄ですが、古事全般に通じた篤実な実証主義的研究者として、いつも周りから頼りにされる存在でした。歴史学の中でも、とりわけ社会経済史分野は、細部にわたる緻密な史料研究で知られるジャンルですが、それは先生のご性格をそのまま表しているように思うことが何度もありました。同じく歴史学を専門とする者として、中国史のみならず歴史学全般に目配りした重厚なお話しを聞く度に、その学識の深さと広さを感じいった次第でありました。あるいは、さまざまな学内の会議の場でも、先生のご発言は、事実に基づいて着実に議論されるスタイルであり、それは歴史学的実証主義の中で育まれてきたものであったと思えます。

こうした意味からも、文学部の学域・専攻制への移行という二〇一二年度からの大きな改革を前にして、先生がご定年を迎えられることは残念でなりません。今後とも、文学部・東洋研究学域・東洋史学専攻へのご助言をいただきたく願っております。

学校法人立命館は、本田先生に名誉教授の称号をお贈りし、その長年のご貢献を讃えることになっていきます。本会は、先生のご功績と学恩とに深い謝意を表し、ご定年を記念する論集を編み、先生に献呈させていただきます。ありがとうございました。

二〇一〇年十二月

立命館大学人文学会会長

文学部長 桂 島 宣 弘